

# 御挨拶

ワールドニュース編集部 吉田 寿子

## 予期せぬ出来事

小松左京さんは「復活の日」という、正体不明の感染症で、地球上の人類が減りそうになる SF 小説を 45 年も前に発表しておられた。

中世ヨーロッパでは、ペストの流行で、人口の 50% 近くが亡くなり、封建体制が揺らぐまでになったと聞く。

また、アメリカ大陸では、アステカ文明やインカ帝国がヨーロッパから攻めてきた兵士の中に、たった一人のスペイン人が天然痘にかかっている、それが、瞬く間にアメリカ大陸に感染が広がり、南アメリカの文明は、スペインに下ることになったという。中世ヨーロッパでは、天然痘がしばしば流行し、ヨーロッパ人にはある程度の天然痘に対する免疫があったのに対しアメリカ大陸には天然痘がなかったために、瞬く間に大陸の人々が天然痘にやられて、亡くなっていったのだそうだ。

今までも感染症が人類の歴史を書き換えてきた、という事実、感染症の恐ろしさを訴える小松左京さんやカミュといった小説家の警鐘は今、改めて、耳を傾けている。

2020 年お正月、東京オリンピック・パラリンピックの幕開けだ、と、選手は全力を尽くすことを誓い、関係者は後ひと踏ん張り、心を引き締めた。ところが、中国の武漢の封鎖は、まさに、カミュの小説「ペスト」を思い起こさせ、戦慄した。それが、あっという間に新型コロナウイルスが世界中に広がり、ついに、日本の 7 都市、ついに全国に非常事態宣言が出されるまでになった。

現在、新型コロナウイルスに対して、免疫のない、世界の人々がこの病気の蔓延に恐れて、警戒し、そして苦しんでいる。

我々パラ・パワーリフティング関係者も、「新型コロナウイルスに感染しない、感染させない」為に、毎週行ってきた練習会を中止し、試合を延期し、じっと、感染者が減少することを、一刻も早くワクチンが出来上がることを、願い、すべてを遮断して休眠状態に入った。

さて、パラ・パワーリフティング。すべての大会が中止、すべての合宿が中止された今、トレーニングできている人は、自宅や会社に占有トレーニング場を持っている少数の人々。他は、全くトレーニングする手立てがなく、自宅で自重トレーニングや、アイソメトリックトレーニングに勤しむしかない。パラアスリート専用トレーニング場として頼みの綱であった日本財団パラアリーナも新型コロナ軽症者の為の病床となり、ひょっとしたら、二度と、パラアスリートの皆さんがここでトレーニングをすることはないかもしれない状況だ。

非常事態宣言が解除されたらどうするか、今、まずは可能性を探り、様々な問いかけを様々な方面にしているが、誰も、わからない。「いつ終息するのか？」そんな状態で、日々、テレビの「本日の感染者数」を祈るような気持ちで、その減少を見守っている。

さて、ワールドニュース。

1993年5月20日、第一号を発行した。当時は、ただのコピーでホッチキス止め、皆さんに各地の選手の活躍や、協会の行事などを知らせたい、という思いだけで始めた素人編集。以来、あっという間に28年がたった。

代書屋さんが、一文字一文字、漢字を打って、原稿を作っていた時代から、タイプライター、ワープロ、パソコン……。急速に雑誌作りの方法が進化し、2013年からはネット時代に即して、紙によるニュースと同時にウェブでも原稿を見られるようにしていった。その後、JPAは無論、各県協会もホームページを作り、月に一回の雑誌の発行を待つまでもなく、情報は、欲しいときに簡単にネットから取れるようになった。それでも、ネット社会にはついていけない、という、方々の声を受けて、ワールドニュース誌を作ってきた。この半年余りは、もう、雑誌作りは不要の時代になったのではないかと、各協会のホームページから情報を集めることに、意義があるのか、という、疑問と、原稿の締め切りに追われる日が続いた。

ワールドニュースを作っているときには、大会に帯同された皆様から大会参加の感想をいただいたり、パワーリフティングの理論的側面の記事を投稿いただいたり、沖縄をはじめ各地でパワーリフティングにまつわる報道情報を頂き、また、竹井保満さんには巻頭文の投稿いただいた。竹井さんの文章には、パワーリフティングにまつわるだけでなく、社会面からもご意見を頂き、誌面を引き締めていただいた。

本当に皆様のご支援を頂いて、雑誌としてのワールドニュースが発行できていたのだな、と、改めて思い返される。

本当に予期せぬ出来事が起こり、新型コロナウイルスの感染拡大で、東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、あらゆる競技会やイベントが中止や延期となり、練習する場所さえなくなってしまった。

このあたりで、雑誌形式によるワールドニュースを廃止したほうがよいのではないかと、漠然と考えてきたこの一年。

日本記録も、イベントカレンダーも、大会結果も、JPAや各都道府県のホームページを見れば、早く、正確な情報が得られます。

今後、ワールドニュースができることと言えば、その時々皆さんが感じられたパワーリフティングへの思いを投稿の形で掲載させていただいたり、パワーリフターの一員として、感じた折々の感想をウェブ版に掲載させていただき、違った側面から、パワーリフティングに関わっていくべきではないかと、考えました。

メガパワーのウェブ版ワールドニュースをどういう風に掲載していくか、お時間を頂き、考えたいと思います。

雑誌は、一年区切りでご購読いただいていたため、購読料金を返金させていただかなければならない方もおられます。返金作業については、改めて、連絡させていただければと存じます。

ワールドニュースの雑誌版をお読みいただいた皆様、長い間、お世話になりました。

東京都府中市の「クラウン工房」さんには、迅速な毎月の印刷、心より感謝申し上げます。

パワーリフティング関係者の皆様、長い間お世話になりました。重ねて御礼申し上げます。

ありがとうございました。